

# 町長から行政報告をしました

※一部抜粋

## 浪江町合併60周年 記念式典



10月9日に浪江町地域スポーツセンターの落成式を兼ねて、浪江町合併60周年記念式典を開催しました。式典には約250名の来賓を迎え、合併50周年からの10年間における町政発展の功労者13名、震災当初から本町および町民に対し多大な貢献をされた自治体の代表者8名、個人2名に対して感謝状と記念品の贈呈を行いました。

多くの来賓を迎え、震災後初となる大きな行事を町内で開催できたことは、非常に感慨深いものであり、改めて先人が築いた豊かな故郷への思いを大切にしつつ、崩壊した「町の再生」を成し遂げる覚悟と決意を新たにしました次第であります。

## 避難指示解除と その後に向けて

### 特例宿泊・準備宿泊

9月1日から26日の期間で実施した特例宿泊については、申込み者が39

3人170世帯で、そのうち実際に宿泊した方は、269人131世帯となっております。

帰還支援一時宿泊所として9月1日にオープンしたホテルなみえには、77人の方が宿泊されました。

また、11月1日から開始した準備宿泊については、12月1日現在で、申込み者が510人201世帯で、そのうち実際に宿泊した方は、356人148世帯となっております。

これまでに、町と国による戸別訪問、さらには9月24日には特例宿泊者との懇談会、11月24日には準備宿泊者との懇談会を実施し、自宅に住めることの喜びの声をいただいている一方、町内商業施設の日曜営業、防犯面の不安、イノシシ対策といった具体的な課題も多くいただきました。いただいた課題について、役場をはじめ関係機関と連携しながら早急に解決してまいります。

## 浪江町復興ビジョン 検討会議



この会議は、イノベーション・コースト構想を足掛かりとして、当町のさらなる復興のため、国・県・民間等の

たが、残念ながら「戻らないと決めている」は、4・6%増えています。

## 町内の安全

### 町内の防犯体制

町民の皆さまの財産を守るために、防犯カメラの設置やパトロール強化をしています。また、警察、消防、除染事業者、見守り隊、消防団、警備会社、行政區長会などを構成員とする浪江町防犯防火対策連絡協議会において、防犯対策について話し合いを行っており、10月には準備宿泊に対する情報共有を図るとともに、お互いの活動報告をするなど有意義な会議となりました。引き続き回を重ね、町民の安心・安全のため更なる連携強化を図ってまいります。

なお、10月までの刑法犯認知件数は22件であり、昨年比では9件の増となっております。

### 消防団活動



10月9日、消防団秋季検閲式を地域スポーツセンターで実施しました。103名の消防団員が出動し、消防団活

知見を結集し、町の発展的な将来像を検討することとしています。10月6日に、高木経済産業副大臣をはじめ、各分野の関係者にご出席いただき、第1回の検討会議を開催し、その後ワーキンググループを4回開催しました。今後はビジョンを策定し、復興計画「第二次」に反映してまいります。

## 復興計画【第二次】

これまで、策定委員会を4回開催し、中間とりまとめまで進捗しています。今後、パブリックコメントを実施し、2月に委員会から計画案が提出される予定となっております。

## UR都市機構との 覚書の締結

11月29日、町はURと「浪江町の復興まちづくりの推進に向けた覚書」を締結しました。URは、これまでに阪神・淡路大震災、中越・中越沖地震、東日本大震災等で多くの自治体の復興まちづくり支援を行っており、そのなかで培ってきた技術力や経験を当町のまちづくりに生かしていきたいと考えています。

## 町内のインフラ復旧・ 生活基盤の整備

### 町内の 公営住宅 整備



現在、町内への帰還にあたり住宅に困窮されている方等を対象とし、幾世橋地区の浪江東中学校周辺に、木造平屋建て85戸、5階建て集合住宅2棟80戸の整備を進めています。

いずれも、平成29年度中に完成予定であり、11月より入居者の募集を開始しています。

### 防災集団移転

津波被災地の防災集団移転促進事業による宅地等の買い取りについては、契約手続きを含め約530件、面積にして約87%の契約状況となっております。また、移転先住宅団地の整備状況は、幾世橋地区23戸については工事施工中、請戸地区42戸については埋蔵文化財調査並びに工事設計を行っているところです。

## 帰還困難区域の取扱い に関する考え方

8月31日に、国から「帰還困難区域の取扱いに関する考え方」が示されました。これについて、9月12日に議会、10月26日に区長会に説明がされたところです。また、11月17日には帰還困難区域に住所がある役場職員同士による意見交換を行いました。

この「取扱い」は、大きな方針を定めたものですので、今後、細部を国と協議しながら、並行して地区のご意見も伺いながら、帰還困難区域の拠点づくりをするため、円滑な計画策定に努めてまいります。

## 浪江町住民意向 調査



9月に復興庁と福島県、浪江町の三者共同で実施し、11月25日に調査結果の速報が発表されました。9,087世帯に郵送し、回答は4,867世帯、回収率は53・6%となっております。

町への帰還意向については、「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」17・5%、「判断がつかない」28・2%、「戻らないと決めている」52・6%でした。「すぐに・いずれ戻りたいと考えている」は、ほぼ変動がありませんでし

## 仮設商業施設の整備



町内の買い物環境向上のため、整備を進めてきた仮設商業共同店舗施設「まち・なみ・まるしえ」が、10月27日にオープン記念式典を挙行し、飲食業4店舗・小売業4店舗・サービス業2店舗の計10店舗が開店しました。

翌10月28日から30日にかけてオープン記念イベントを開催し、浪江町出身の歌手水原ゆきさんや浪江踊り隊によるステージ、復興シンポジウムの開催、その他抽選会や復興拠点を巡るツアーなどを企画し、延べ1,500名の方にご来場いただきました。

今後も町民の皆さまに親しまれる施設となるよう、協議会との協働で運営を進めてまいります。

## 復興まちづくり・産業の振興

### 町内での事業再開・新規事業の状況

11月末現在、再開・新規あわせて、37事業者41事業所となっております。町

としては町内で事業を再開した事業所に対し電気料金を補助するなど、引き続き町内事業再開への支援を実施してまいります。

### 雇用の場の創出・企業誘致

雇用の場の創出のため、大平山の南産業団地と北幾世橋地区の北産業団地の整備に伴う基本設計業務を進めています。

さらには、早期に進出を希望される企業へ提供する用地として、浪江日本ブレイキ株式会社跡地を取得しており、現在、既存施設の解体設計や敷地の整備設計を進めています。

昨年同様、酒田地区において販売を目的として栽培されていた米について、去る10月10日に県内外の大学生など約50名が参加し稲刈りを実施しました。その後実施した玄米の放射性物質検査において、基準値以内との結果を確認し、「NPO法人ワーカースコープ」の協力のもと、昨年に引き続き浪江産米の販売をしています。

施設整備に係る基本計画に基づき、造成・建築基本設計、並びに地質調査を行っているところです。併せて、国が整備する「道の駅」との合築を計画しており、駐車場等の整備エリアについても協議を進めています。

### 農地保全

除染後の農地を地域で保全していくための復興組合については、11月末までに累計で18行政区12組合が設立されています。

さらには、水路の泥上げや農道の管理など農業・農村の有する多面的機能の維持を図る共同活動のための「多面的機能支払組合」も、5団体7行政区において設立されているところです。

現在、漁港のがれき処理が完了し、年明け早々には30隻ほどの漁船が帰港できるまでに復旧しています。

### 水産業の復旧・復興

11月3日に岡山県赤磐市の「あかいわ祭り」、11月19・20日には千葉県成田市の「成田市産業まつり」、12月2・3・4日には東京都庁の「全国PRコーナー」に、「大堀相馬焼」や「なみえ焼そば」などの町内出展者とともに参加し、被災地域の現状を伝えるとともに、浪江のふるさと産品の販売およびPRを実施しました。また、11月19・20日には、二本松市内において「復興なみえ町十日市祭」が開催され、多くの町民の方々の再開の場となりました。

### 水稲の実証栽培



に向け、水産業の加工団地整備計画の作成にも着手するなど、町の基幹産業の一つであった水産業の復興に着実に取り組んでまいります。

### 交流・情報発信 拠点施設の整備

施設整備に係る基本計画に基づき、造成・建築基本設計、並びに地質調査を行っているところです。併せて、国が整備する「道の駅」との合築を計画しており、駐車場等の整備エリアについても協議を進めています。

### 観光・産品振興

## 町民の健康管理

### 健康管理



避難生活の長期化に伴い、運動量の減少、食習慣の変化、精神的ストレス、睡眠障害等により、生活習慣病が増加しています。引き続き、適度な運動、規則正しい食生活などの健康指導や啓発活動により、町民の健康維持および増進に努めてまいります。

### 小型・軽量積算線量計(Dシャトル)

11月1日から準備宿泊者へDシャトルの貸出しを行っており、11月末現在で、121世帯に232台を貸し出しています。

また、11月中旬より準備宿泊者以外の町民の方へのDシャトルの貸し出しを開始したところであり、一人でも多くの方に利用いただけるよう、広報、ホームページ等で周知を図ってまいります。

### 災害関連死

双葉地方災害弔慰金審査委員会において関連死の可否について審査をお願いしているところであり、11月25日現在、申出受理件数が484件、うち審査済件数が462件、うち認定済件数が399件となっております。

## 生活支援

### 賠償支援

今般示された「農林業に係る今後の損害賠償について(案)」は、避難指示区域の営農等の再開や、損害解消に資

### 応急仮設住宅

11月末現在の仮設住宅の入居状況は、建設戸数2,763戸に対して入居戸数が1,380戸、入居者数は2,476人、入居率は49.9%となっております。

### 町外の復興公営住宅

第5期分の再募集が11月24日、並びに定期募集が12月1日から開始され、浪江町民対象の募集戸数は、合わせて421戸となっております。

### 町民交流事業

10月以降、町主催の交流会を、10月16日の茨城県ひたちなか市を始めとし、これまで開催していなかった都市等も含めて、全国5か所で開催しました。

## 教育行政

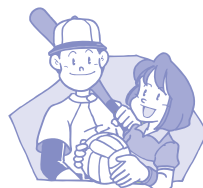
### 学校教育



10月22日に避難先で6回目となる浪江中学校文化祭「秋桜祭」が開催されました。今年は「未来への挑戦状」私たちの夢へ」をテーマとし、在校生17名が力を合わせて企画・準備した内容は、生徒たちの今と未来を物語る素晴らしいものとなりました。

「さとなみえ科」を中心に、郷土への理解を深めるとともに、地元住民との交流にも結び付いている幅の広い教育活動が評価されたものです。

## 生涯学習



第10回市町村対抗軟式野球大会が開催され、9月11日に小野町と対戦しましたが0対1で惜敗しました。10月6日には二本松市、城山総合グラウンドで町長杯グラウンドゴルフ大会、10月8日には二本松市、日山パークゴルフ場で町長杯秋季パークゴルフ大会、10月15日には二本松市、郭内ゲートボール場で町長杯ゲートボール大会、10月29日には本宮市、白沢体育館で町長杯家庭婦人バレーボール大会がそれぞれ開催され、県内外の避難先から集まった多くの町民が、スポーツを通して親交を深め合っていました。

11月20日には第28回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会が開催され、沿道では多くの町民の方が声援を送る中、総合27位、町の部9位入賞という素晴らしい成績をおさめました。

## 子育て支援

昨年度より再開し通算で6回目とな

る「こどもの笑顔フォトコンテスト」受賞作品の表彰式を10月6日に開催しました。表彰式には受賞者の家族など10組が出席され、明るい笑顔がいつぱいの雰囲気の下、賞状と記念品を贈呈しました。

## 町内の教育環境整備

帰還後の学校教育のあり方について検討するための「浪江町立小・中学校に係る検討委員会」を設置し、10月28日には、第1回検討委員会が開催され、有識者、地域関係者、および児童・生徒の保護者を始めとした15名の委員により検討が進められています。現在までに、2回の委員会が実施され、今年度末を目処に、学校再開の時期などの検討を重ね、教育委員会に答申する予定となっています。

## 浪江東中学校の改修・浪江認定こども園の新築

### 浪江東中学校の改修・浪江認定こども園の新築

12月2日、町内の学校教育の拠点として整備を予定している浪江東中学校の改修工事、および同敷地内に整備する、浪江認定こども園の新築工事の安全祈願祭が執り行われました。東中学校改修は、来年11月末、認定こども園は、7月末に工事完了を予定しています。今後も浪江町の将来を担う子ども達

のために、町の教育環境の整備に向けた取り組みを鋭意進めてまいります。

## 表彰

### 浪江町功労者表彰式



文化の日の11月3日、「第44回浪江町功労者表彰式」を二本松市内にて開催しました。

表彰者は、特別功労表彰は3名で、長年にわたり学校教育の進展に尽力された方や、浪江町議会議員として地方自治発展に尽力された方々です。また、10名の方々が功労表彰、9名の方々が善行表彰として賞状および記念品を贈呈し、ご功績を讃えました。

### 浪江町敬老祝金・100歳賀寿表彰

80歳から84歳の方940名、85歳から89歳の方702名、90歳以上の方394名、合計2,036名の方に対して、敬老祝い金を支給しました。また、満100歳を迎えられました2名の方に対しても、賞状とお祝い金を支給しています。

## 11月22日に発生した地震および津波について

午前5時59分に福島県沖を震源とするマグニチュード7.4の地震により、浪江町においては震度5弱、午前6時2分には津波警報が発令となりました。

地震発生時は3・11を思い出し、地震に伴う津波被害、また、原子力発電所事故などを心配しました。

実際に、福島第二原子力発電所の使用済燃料プールの冷却が一時停止しましたが、幸いにもすぐに再起動が図られ、冷却が継続されました。東京電力に対しては、引き続きこうしたりスクに対する対策と迅速な対応を求めてまいります。

また、地震発生から約20分後には担当職員が浪江町役場本庁舎に到着し、以降、職員が順次参集し情報収集等の対応にあたりました。災害において初動は非常に重要であり、引き続き、訓練などを通して適切な初動対応がとれるよう図ってまいります。なお、本地震による町内の被害については、現在まで確認されておりません。